

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902963	事業の開始年月日	平成18年1月1日	
		指定年月日	平成18年1月1日	
法人名	社会福祉法人 心の会			
事業所名	さくらの家三番館			
所在地	(238-0026) 横須賀市小矢部4-15-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	平成21年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成22年6月10日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1471902963&SCD=320>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくらの家三番館では、地域交流に力を入れています。介護教室などを開催し、地域の皆様にご参加いただいたり、交流として近隣のお年寄りを対象に、お風呂の開放や食事を一緒に楽しんで頂いています。定期的に、地域の方がハーモニカや小物作りのボランティアなど来訪して頂いています。来年度H22.4月より町内会の班長をやる予定です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-4 ケゲヌマファースト 3階		
訪問調査日	平成22年1月15日	評価機関 評価決定日	平成22年4月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【地域との関わりを大切にし、交流に力を入れています】
 管理者は常に「笑顔で挨拶」を職員に伝えています。職員は出勤・退勤・散歩時等挨拶を行なっています。当初は大変だったご近所付き合いも今では立ち話をするまでになっています。日曜日には1階に喫茶「さくらんぼ」がボランティアの運営で営業されます。日々は、認知症の方がふらっと来てお茶を飲んでいたり、週2回位近所の方がお風呂に入りに来て一緒に食事もしています。また、ご家族・近所の方・他のホームの方々をお誘いしてお菓子作りも行なっています。その他、ご近所の方でよくハーモニカを吹いて聞かせて下さる方もいます。ボランティアの方々も多く（折り紙・朗読・草履作り・ギター・オカリナ・三味線等）訪れています。更に介護教室などを開催するなど、地域の方々の介護に関する支援や相談等も受けています。

【利用者は自分の家と同じように過ごしています】
 利用者はそれぞれ自分が出来る事を率先して行なっています。調理や片付け・洗濯物たたみ等、誰が声を掛けるとも無く自然に洗濯物が取り込まれればたたみ、食事が終われば片付けるといった感じです。天婦羅揚げの上手な方は皆の分を揚げていましたし、糠床を持って来られた方が色々な野菜を漬けていて、昼食にも出され、大変美味しく好評です。利用者・職員がひとつの家族のように暮らしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	社会福祉法人 心の会
ユニット名	さくらの家三番館 1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊重・自分の家と同じような、ごく普通の暮らし・地域との関わりを大切に」を事業所独自の理念としている。職員には、入職時より、理念についての説明を行っており、各自がポケットサイズに縮小した理念を携帯し、理念の共有をしている。職員は買物・散歩・近隣との交流などを理念に沿って実施している。	理念は1階・2階とも入口に掲示されています。職員はいつでも視認できるように縮刷版の理念を携帯し、事あるごとに確認を行なっています。また、会議や日々の生活の中で理念に沿っているかを考え、確認しサービスの提供を行なっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退勤・散歩時などの挨拶を励行し、実施している。さくらの家のバザーや模擬店などの大きな行事には、地域の方々の協力を頂いており、町内の掃除には参加している。	自治会の掃除や各イベントには利用者・職員が一緒に参加をしています。散歩や買い物時には近隣の方と挨拶を交わしたりと交流を図っています。また、ホームのイベントにはボランティアや近隣の方々が参加・お手伝いを行なっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や地域の方を対象に介護者教室を開き、認知症介護の専門として、地域に知識を広げ、理解をして頂くだけでなく、介護や認知症の相談を受けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横須賀市の指示のもと、地域会議と事業所会議として、運営推進会議を実施している。地域会議では、事業所や市との連携・情報交換を実施している。事業所会議では、地域との意見交換を行い、そこで出たアイデアの防災訓練・夕涼み会を実施したりとサービスや地域密着などの向上につなげている。	地域の7事業所合同の地域会議（年2回）では行政・事業所との情報交換を行ない、ホーム単独で事業所会議（年4回）では地域との情報交換や意見交換を行ないそこで出された意見や提案を日々のサービス提供に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当事業所の運営部長は、横須賀市グループホームの連絡協議会の顧問をしており、二番館の管理者は、副会長を務めており、長寿社会課との連携が取れている。	当法人の部長・管理者がグループホーム連絡協議会の顧問・副会長を務める等、行政とのパイプ作りに貢献しています。併せて横須賀市の長寿社会課職員と連携を図り協力体制を築くよう働きかけを行なっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加している。その後内部研修を行ない正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施している。	職員は外部の講習や内部の研修に参加し、身体拘束を正しく理解出来るよう積極的に学んでいます。また身体拘束に関する自己チェックシートを作成してそれぞれチェックを行ない、その後会議で話し合いする等、身体拘束の無いケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての外部研修へ積極的に参加し、内容については、フロア会議で取り入れ現場の対応で問題がないか、常に確認している。虐待に関する自己チェックも実施して、理解できていない所を再確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括による、権利擁護についての勉強会を実施している。フロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、現在対象者はいないが、活用できる体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で、一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様にしている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を開催している。制度の改正や法人の方針などを報告し、全体的な意見等を頂ける様にしている。細かな意見については、懇親会形式で各ユニットが実施し、身近な意見やユニット独自の意見の吸い上げを行い、運営に生かしている。	法人内で年2回家族会を開催しています。その後ユニット毎に懇談会形式で話し合いを行ない、意見や要望が出しやすい雰囲気作りをしています。そこで出た意見や要望をケース記録に記載し、職員会議で検討して運営に反映させています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人運営会議に管理者が参加して、フロア会議等が出た意見を提案できる場が設けられている。また、職員アンケートなども実施し、積極的に意見等を集約して、反映に努めサービスや働きやすい職場環境の向上に努めている。	フロア会議で出した意見を管理者は運営会議に持ち込み提案を行なっています。法人はパート職員を含め「職員アンケート」を実施し、職員の意見を積極的に聞き運営に反映させています。また職員の職場環境の改善にも役立っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年法人の職員総会があり、管理者が推薦した職員の表彰がある。新たな資格の取得者には、手当と表彰があり、正職員への昇格などの機会も得られるなど環境や条件が整備されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップに必要な研修については、本部より要請があり、管理者が適正に応じて、常勤・非常勤職員に勉強の機会を設けている。職員からの研修参加希望があった際には、参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市には、グループホーム連絡協議会があり、研修会を実施している。その中で交流をもつ機会が設けられている。他のグループホームの研修会にも、職員等参加させて頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や体験をして頂き、事業所の特徴などを本人様に説明し、困難や要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問して、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には、ご家族様の話を良く聞き、関係をつくり、ニーズなどを理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お電話や見学・体験の際に、状況をお聴きして、困難などの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や買い物などをして、生活を共有したり、若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いたりしている。理念として、入居者様が楽しんで頂く支援をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に家族と、相談を行いながら、職員のみ意見だけではない様にしている。受診や行事なども参加して頂くなど共に支え合あえている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。	馴染みの関係が途切れないように、買い物は利用者が住んでいた近くへ行ったり、ドライブで自宅へ訪問したりしています。またホームへは親しくしていた友達や友達の家族も面会のため訪問をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、トラブルを未然に回避するようにしている。座席など環境を工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が間に入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方への面会やお葬式などに参加させて頂き、関係が継続できる様に、経過のフォローに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報、本人様の思いや希望などを聴き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情などから察して、本人様の思いに沿えるよう会議等で出来る事を見つけ支援につなげている	入所時にお聞きした生活暦等や家族からの情報をケース記録に記載し、フロア会議で検討し対応できる事を検討しています。また、日々利用者一人ひとりの関わりを大切に傾聴し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初に把握している生活歴と、生活の中での本人様との会話から、昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聴いたりして、新たな情報をあつめている。家族様にも、本人様との会話の中のやり取りを伝え、思い出して頂いたりし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をケースにとり、情報を集め、毎日の個々の申し送り・毎月のカンファレンス・フロア会議にて状況を把握し、本人様の力に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、家族の希望や本人様との会話などからの希望に沿って検討している。医師や看護師などにも相談して、様々な角度から検討し、その人らしい生活が送れる様にしている。	介護計画作成には本人・家族の意向や医師・看護師などのアドバイスを反映し作成をしています。また、利用者毎にアセスメント・モニタリング・ケース記録を基にケアカンファレンスを行い、職員の意見やアイデアを反映して介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践・結果気づき等は、個別の記録に記入し、申し送りにて毎日新しい情報の共有をしている。更に、記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。日中は黒ペン・夜間は青ペン・医療は赤ペン・Nsは蛍光で囲むなどして見易さなどの工夫を行い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス等を併設しており、デイの外出行事やイベントへの参加も行なっている。入浴サービスなども行なっており、重度などにも対応出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや自治会などとの交流が盛んな事から、お互いが顔見知り散歩や喫茶店など安心して楽しむ事が出来ている。中学校などの職場体験などを受け入れる事での楽しみも得られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族様の納得の上で変更をして頂き、適切な医療が受けられる様にしている。	利用者・家族の希望を受け入れ、往診可能な内科医師も5医療機関あり、さらに法人契約の医師が全員に対応できます。特に契約医師は夜間対応も可能です。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に重度化・看取りに関してを具体的に明記し、事業所で出来る対応を明確にしている。かかりつけ医とも協力し、ご家族様の希望に沿う様、身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施している。	重度化に備えてかかりつけ医と契約医による医療相談を行っています。また、本人・家族の希望を踏まえて職員によるターミナル委員会を組織して自己研修を実施すると共に利用者急変時の対応に関する同意書を作成しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人一人の緊急マニュアル・応急手当マニュアルを作成して、速やかに対応できるように工夫している。看護師を中心に、各ユニットごとに内部研修を行い、緊急時等の対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。1回目は消防署に依頼しての避難誘導・煙体験を実施。2回目は、夜間の通報訓練の実施。3回目は防災訓練の実施。訓練毎に出た問題点を改善する様にして避難の方法を高めている。地域には日常から交流を持ち、協力を得られる様にしている。	定期防災訓練では利用者・職員のほかに地域住民の参加も常にあり、地域のボランティアだけによる計画・設営の炊き出しも実施されました。また、町内会への防災訓練には職員も参加しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重と人生の充実を理念としている。入居者様一人ひとりを大切にして、個人の性格に合った対応を心がけている。	一人ひとりを大切に考え、言葉かけには重点を置き、人格を尊重し性格に合わせて行なうよう心掛けています。また、日々の変化を見逃さず日勤・夜勤の「申し送り書」にもその日の留意点を記述しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物など本人様の希望を選択出来る場面を作った支援している。「どうされますか」などの様に自己決定の出来るような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。家事や散歩・入浴など希望を確認してから、本人様のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ワンピース・スラックスなど好みや馴染みの服装をして頂いている。理美容では、希望に沿った髪形にして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かして、出来ることを主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどの、食事の支度を一緒に行っている。一緒に準備した食事を職員も同じテーブルでとり、楽しみの幅が広げられる様に支援している。食後の、片付けも一緒に行っている。	食事の時間も自由に決められます。食事の好みは月に2回の「フリーメニュー」で利用者の意見が反映されています。中には居室で長年の「糠床」を毎日管理しこれで漬けられた漬物が食卓に出たり、天婦羅メニューには欠かせない調理人が利用者にあります。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、チェック表を作成し確保出来るように支援している。個別に、減塩・捕食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・介助などに分けて、実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。	日々のチェック表は日勤リーダーが作成し、それを基に排泄パターンを把握しています。また誘導をする場合は利用者の行動を見て「猫を見に行きましょう」などとさりげない声かけをして誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。繊維物や水分の摂取・運動など個別に行い予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特に曜日や順番は決めず、ほぼ毎日行っている。入浴希望の方には、随時入浴をして頂いている。	1週間の平均入浴回数は2回～3回ですが、ご希望があれば毎日でも可能です。時間帯は夜間の1名体制の場合以外であれば利用者の希望に沿う事は可能です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力などに合わせている。就寝起床時間は生活リズムに合わせて、個々のタイミングで支援し、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見出せる様に、習字や漢字・料理・洗濯など得意としている事への場面づくりの支援をしている。天気の良い日の散歩やコーヒーなどの嗜好品の提供など支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により、外食や知人への訪問などをして頂いている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。	天気がよければ周辺への散歩は毎日行われています。週1回の買い物、月1回足を伸ばしての「ミニドライブ」を実施しています。利用者全員と複数の家族が参加して三浦半島剣崎まで外食にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会参加として大切なので、能力に応じてご自身で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけたり、受けた電話を本人に回したりと支援している。手紙も自由にやり取り出来る様にしている。必要に応じて代筆等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家全体が落ち着いた家庭的な雰囲気になっている。照明にも刺激の無いように配慮している。入居者様の馴染みのある物や、季節の草花・作品など飾りにて温かい空間作りを行なっている。	1階に喫茶「さくらんぼ」を設置し日曜日にはボランティアにより運営しています。2階の和室を家族の面会時に解放したり2月には「初釜」を開催してお茶を楽しんだりしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるソファやテーブル・イス・畳部屋・談話室があり、利用者同士が過ごしたり、1人になれる場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等を自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に工夫している。	利用者が自宅から自由に家具などを持ち込めます。仏具、ミニ椅子・テーブル、テレビなどが置かれ、自宅に近い環境をセッティングする事で混乱をきたさないようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。部屋の入口に名札等を飾って自室の確認が出来る様にしている。		

事業所名	社会福祉法人 心の会
ユニット名	さくらの家三番館2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人の尊重・自分の家と同じような、ごく普通の暮らし・地域との関わりを大切に」を事業所独自の理念としている。職員には、入職時より、理念についての説明を行っており、各自がポケットサイズに縮小した理念を携帯し、理念の共有をしている。職員は買物・散歩・近隣との交流などを理念に沿って実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤・退勤・散歩時などの挨拶を励行し、実施している。さくらの家のバザーや模擬店などの大きな行事には、地域の方々の協力を頂いており、町内の掃除には参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣や地域の方を対象に介護者教室を開き、認知症介護の専門として、地域に知識を広げ、理解をして頂くだけでなく、介護や認知症の相談を受けるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横須賀市の指示のもと、地域会議と事業所会議として、運営推進会議を実施している。地域会議では、事業所や市との連携・情報交換を実施している。事業所会議では、地域との意見交換を行い、そこで出たアイデアの防災訓練・夕涼み会を実施したりとサービスや地域密着などの向上につなげている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当事業所の運営部長は、横須賀市グループホームの連絡協議会の顧問をしており、二番館の管理者は、副会長を務めており、長寿社会課との連携が取れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、積極的に外部の研修や講習会に参加している。その後内部研修を行ない正しい理解に努め、身体拘束のないケアを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しての外部研修へ積極的に参加し、内容については、フロア会議で取り入れ現場の対応で問題がないか、常に確認している。虐待に関する自己チェックも実施して、理解できていない所を再確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括による、権利擁護についての勉強会を実施している。フロア会議でも取り上げ、フロアの職員にも制度について理解できるように取り組んでいる。成年後見制度については、現在対象者はいないが、活用できる体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約について、十分な説明を行った上で、一度自宅に持ち帰って頂き、入居までに不明な点等がないか確認して頂く様にしている。契約内容に納得頂いた上で署名をして頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を開催している。制度の改正や法人の方針などを報告し、全体的な意見等を頂ける様にしている。細かな意見については、懇親会形式で各ユニットが実施し、身近な意見やユニット独自の意見の吸い上げを行い、運営に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人運営会議に管理者が参加して、フロア会議等での意見を出せる場が設けられている。また、職員アンケートなども実施し、積極的に意見等を集約して、反映に努めサービスや働きやすい職場環境の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年法人の職員総会があり、管理者が推薦した職員の表彰がある。新たな資格の取得者には、手当と表彰があり、正職員への昇格などの機会も得られるなど環境や条件が整備されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップに必要な研修については、本部より要請があり、管理者が適正に応じて、常勤・非常勤職員に勉強の機会を設けている。職員からの研修参加希望があった際には、参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市には、グループホーム連絡協議会があり、研修会を実施している。その中で交流をもつ機会が設けられている。他のグループホームの研修会にも、職員等参加させて頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学をして頂き、事業所の特徴などを本人様に説明し、困難や要望を聴いている。管理者が自宅へ訪問して、入居前から信頼関係の構築に努め、安心して利用して頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・体験の際には、ご家族様の話を良く聞き、関係をつくり、ニーズなどを理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お電話や見学の際に、状況をお聴きして、困難などの理解に努め、必要に応じたアドバイスをする様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事や買い物などをして、生活を共有したり、若いころの話や知恵など沢山の事を教えて頂いたりしている。理念として、入居者様が楽しんで頂く支援をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活面・医療面共に家族と、相談を行いながら、職員のみ意見だけではない様にしている。受診や行事なども参加して頂くなど共に支え合えあっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援を行い、馴染みの関係が途切れない様にしている。面会も常に受け入れて、ゆっくりと過ごして頂ける様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や行動などを把握して、トラブルを未然に回避するようにしている。座席など環境を工夫して、気の合う方との会話の機会を作っている。また、職員が間に入る事で孤立する事なく、誰もが楽しめる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方への面会やお葬式などに参加させて頂き、関係が継続できる様に、経過のフォローに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常での会話や家族からの情報、本人様の思いや希望などを聴き、職員全員で把握に努めている。困難な方でも表情などから察して、本人様の思いに沿えるよう会議等で出来る事を見つけ支援につなげている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所当初に把握している生活歴と、生活の中での本人様との会話から、昔の暮らし方や生まれた場所の環境などを聴いたりして、新たな情報をあつめている。家族様にも、本人様との会話の中のやり取りを伝え、思い出して頂いたりし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をケースにとり、情報を集め、毎日の個々の申し送り・毎月のカンファレンス・フロア会議にて状況を把握し、本人様の力に合わせたケアを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する時には、家族の希望や本人様との会話などからの希望に沿って検討している。医師や看護師などにも相談して、様々な角度から検討し、その人らしい生活が送れる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実践・結果気づき等は、個別の記録に記入し、申し送りにて毎日新しい情報の共有をしている。更に、記録をもとに会議を通して、介護計画の検討・見直しに活用している。日中は黒ペン・夜間は青ペン・医療は赤ペン・Nsは蛍光で囲むなどして見易さなどの工夫を行い、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービス等を併設しており、デイの外出行事やイベントへの参加も行なっている。入浴サービスなども行なっており、重度などにも対応出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや自治会などとの交流が盛んな事から、お互いが顔見知り散歩や喫茶店など安心して楽しむ事が出来ている。中学校などの職場体験などを受け入れる事での楽しみも得られている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望のかかりつけ医を基本にしている。心身の状況に変化等が見られる様ならば、かかりつけ医に相談し、紹介などで専門医へ移行する際は、ご家族様の納得の上で変更をして頂き、適切な医療が受けられる様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さくらの家全体を把握している看護職員を中心に健康面と医療面のケアをしている。連携が取れていることから、心身の安定や早期医療への対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様・医師とカンファレンスを行い、事業所で出来る対応を話し合い、早期退院出来るように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明に重度化・看取りに関してを具体的に明記し、事業所で出来る対応を明確にしている。かかりつけ医とも協力し、ご家族様の希望に沿う様、身心の変化が見られた際には、随時カンファレンスを実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人一人の緊急マニュアル・応急手当マニュアルを作成して、速やか対応できるように工夫している。看護師を中心に、各ユニットごとに内部研修を行い、緊急時等の対応に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施している。1回目は消防署に依頼しての避難誘導・煙体験を実施。2回目は、夜間の通報訓練の実施。3回目は防災訓練の実施。訓練毎に出た問題点を改善する様にして避難の方法を高めている。地域には日常から交流を持ち、協力を得られる様にしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重と人生の充実を理念としている。入居者様一人ひとりを大切にして、個人の性格に合った対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物など、本人様の希望を選択出来る場面を作った支援をしている。「どうされますか」などの様に自己決定の出来るような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間を設ける事無く自由にして頂いている。家事や散歩・入浴など希望を確認してから、本人様のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ワンピース・スラックスなど好みや馴染みの服装をして頂いている。理美容では、希望に沿った髪形にして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を生かして、出来ることを主体に、野菜切りなどの下準備や盛り付けなどの、食事の支度を一緒に行っている。一緒に準備した食事を職員も同じテーブルでとり、楽しみの幅が広げられる様に支援している。食後の、片付けも一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスのとれた献立に沿って行っている。水分の不足がちの方には、チェック表を作成し確保出来るように支援している。個別に、減塩・捕食・形態別・減量などの支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力により、声かけ・誘導・介助などに分けて、実施している。義歯を使用している方には、洗浄剤などの支援もしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などを用いて把握し、声かけ・定期的なトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の管理が必要な方には、排泄表をつけ、便秘の予防と対応をしている。繊維物や水分の摂取・運動など個別に行い予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特に曜日や順番は決めず、ほぼ毎日行っている。入浴希望の方には、随時入浴をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて休息を取って頂いている。食後の休憩など、体力などに合わせている。就寝起床時間は生活リズムに合わせて、個々のタイミングで支援し、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人別にファイリングしており、薬の確認を出来る様にしている。重要な薬等については、会議や申し送り簿等で効果・副作用などの説明をしている。内容に沿って全職員で変化などの観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみや役割が見い出せる様に、習字や漢字・料理・洗濯など得意としている事への場面づくりの支援をしている。天気の良い日の散歩やコーヒーなどの嗜好品の提供など支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力により、外食や知人への訪問などをして頂いている。買い物の機会や日頃の散歩などで戸外へ出られる機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことは社会参加として大切なので、能力に応じてご自身で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って、電話をかけたり、受けた電話を本人に回したりと支援している。手紙も自由にやり取り出来る様にしている。必要に応じて代筆等の支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家全体が落ち着いた家庭的な雰囲気になっている。照明にも刺激の無いように配慮している。入居者様の馴染みのある物や、季節の草花・作品など飾りにて温かい空間作りを行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に利用できるテーブル・イス・喫茶さくらんぼがあり、利用者同士が過ごしたり、1人になれる場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具等をを自由に持ち込んで頂き、安心して過ごして頂ける様にしている。ご家族様と相談し、安全なども良く考え、生活しやすい様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を把握して、家具等で導線の工夫を行い、車イスなどを使用しなくても生活できる様に支援している。部屋の入口に絵等を飾って自室の確認が出来る様にしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	貴法人は3つの事業所が近隣にあり、地域との交流及び関わり等も良い関係が築きあげられている中、同時での開催が認められていない。事業所会議の年2・3回は、合同の事業所会議開催が出来れば、より地域との密着も図れると思われる。	現状の理解をして頂くために、行政へ働きかける。合同での事業所会議の取り組みを行い、より地域と密着した活動が出来るようにする。	事業所会議の一環として、年1回の3事業所合同及び地域の方々と避難訓練を行なう。現状について構成員と共に、行政職員も理解していただく。	12ヶ月
2		オープンより5年、入居者様ADLが低下している状況の中、以前行っていた行動・動作など個別の支援をする事が時間的に困難な状況がある。ADL低下の状況の中、今まで行っていたQOLの支援を継続していくにはどうしたらよいか。	一日の中で、時間配分及び個別の内容を把握し、今まで行なっていた個別支援(家事・アクティビティ含む)が今まで通り行うことが出来るようにしていく。	毎月の会議を活用し、個々の趣味や関心を持っているもの、日々日課となり行動していることなどを把握していき、出来る限り今まで通りの日々の個別の支援に繋げていく。ご家族様の協力も頂き、支援をする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。